

県連ニュース

2012年11月1日発行
栃木県勤労者山岳連盟

2012年 県交流ハイキング東日本大震災ボランティア in 石巻に参加して・・・1
読図講習会(初級)実地研修の開催のお知らせ・・・5

2012年 県交流ハイキング東日本大震災ボランティア in 石巻に参加して 宇都宮ハイキングクラブ 湯澤江美子

1日目の午前石巻の街の中をバスの中から見ました。想像以上の広い範囲が被災しており、ねじまがった鉄骨、川に落ちた鉄橋の1部、塩を浴びて乗れなくなった車の山、大量のガレキ、取り払われた住宅地跡の広い空地、想像をはるかに超えた光景でした。

午後は歩道と空地の草取りをしました。多勢での作業はよくはかどりました。今は使われなくなってしまった仙石線のそばでした。線路はくねくねと曲がって錆びていました。地震発生の時決まりを守って停止した運転手に津波をよく知る乗客達が高いところまで電車を進ませるように説得し、揺れる電車を動かして、助かった話を係りの人が話してくれました。

「気転がきく」とはこういう事なのだなと思いました。

夜は地元のボランティアの方達が映像を映したり、体験を話してくれました。

2日目は上品山を楽しみ、大川小学校に立ち寄りしました。

空地の中に生徒のいない壊れた学校がぽつんと建っていました。その時まで元気にしていた子供たちの事を思い、学校の周りの空地にはその子供たちの家が立ち並んでいた光景を想像すれば言葉も無いほどに胸に迫りました。

係りの人が言いました「明日はあなた達の身に起きるかも知れません」と本当にそうだと思います。

被災された人たちはその日から「ありがとうございます」「助かります」「お願いします」「助けてください」と言い続けていると思います。1年半もです、辛いし、悲しいし、悔しいし、妬ましいと思います。災害がなければこんな言葉も使わずに穏やかに暮らせたでしょうから、でも被災された皆さんは、とても元気で穏やかに私たちに接して下さり、命の守り方などを知らせてくれました。

困難の中でも砕けない気持ちの人達、素敵でした。

栃木県勤労者山岳連盟 発行責任者：増田俊雄 編集責任者：橋田弘一

321-0345 宇都宮市大谷町1109

<http://www.geocities.jp/tochigirosan/>

県連交流ハイキング&東日本大震災ボランティアに参加して

10/13 (土) 大谷の駐車場で参加者32名が揃い6:30にバスは出発しました。

4時間位で三陸道、鳴瀬奥松島に下り近くに石巻の役所の方が出迎え道案内にて「がんばろう石巻」と掲げられた大きな看板の所に案内してくれました。ここは6.9mの津波が着た



地点であたりは何もない所ですが、仮設テントの売店を設け、とても風が強かったですが言葉通り、復興に向けてがんばって商売をしていました。

次に石巻港を車窓より見学です。震災前の道は地盤沈下で水が溜まっている所があり、今だに壊れて廃墟の建物もありますが、新しく建築されている物も多くあり「負けてたまるか!」と歩み始めている強さも感じられました。石ノ森章太郎記念館の側に旧北上川が流れ橋があったのですが、震災直

後はガレキや遺体が欄干に沢山あったと聞き、犠牲者の方々のご冥福を祈るばかりです。

マンガロードの市内を通り、イオンの駐車場を借りて、バスの中で昼食です。他の会員の方からお裾分けをごちそうになり、つかの間のひと時です。案内人により13時から奥松島、のびる地区で草むしりをする事になり上三川の方は初め避難場所へ行く道の草むしりでした

が、途中カキ養殖の家の草むしりに回りました。最初は道具も満足になく、根っ子が固くどうしようと不安でしたが、4人で黙々と作業をしそこの奥さんも一緒に加わり「当時この辺も1F天井まで津波が来て少し離れた自宅は無くなり、今は土盛りをして新築しているが怖いけど、昔から住みなれた土地からはあまり離れたくない」と話してくれました。野木の方が持ち場を終え、応援に駆け付けてくれ4人で不安でしたが、嘘の様に活気づき作業はうまく進みました。震災に遭



われた方々もこうして人との触れ合いで、元気づけられるのかなと思いました。宇都宮の方も加わり、予定より広範囲に見違えるようにきれいになりました。作業を終え、上品の郷で温泉に入り水沼東部構造改善センターへ17:45頃到着しました。

徳島県の方がカレーライスを作ってくれ船橋から来た人達と、一緒においしい食事とお酒で交流会が始まりました。石巻の方からは、震災の様子をスライドを見ながら聞く事が出来ました。



10/14 予定変更、7:10 石巻ハイキングロードを歩き水沼山から上品山へ縦走です。経験者がいなく混迷する場面もありましたが、小さなアップダウンを繰り返し、おしゃべりを楽しみながら3:50 位のコースで、途中や山頂からは北上川、河口、街並みが見え海と山の景色を楽しむ事が出来ました。航空レーダーサ

イトがある上品山にバスが来ていたので、震災で大きな悲劇に見舞われた大川小学校へ寄る事にし、現場はコンクリートの柱が倒れたり、むき出しの鉄筋棒、周りは流され広々とした所にぽつんと廃墟の学校の残骸だけがあり異様で当時の子供たちの、恐ろしい衝撃と悲鳴が聞こえてきそうで何とも悲しくなりました。今後はもっと防災について考えなくてはと思いました。今回の参加にあたっては、予定変更が多く受け入れの都合もありリーダーの方は大変だったと思いますが、もう少し道路状況を調べたら変更はなかったか?と思います。しかしながら、良い経験をさせて頂き、無事終わられてお疲れ様でした。

お世話になりました。

(上三川ハイキングクラブ)

2012年度 県連交流ハイキング東日本大震災支援ボランティア in 石巻に参加して

10月13日の夜は宮城県労山会のお世話で、石巻水沼東部構造改善センターに泊まった。徳島県より12人、千葉県より7人、栃木県より33人は徳島の人たちが作ってくれたカレーライスやそれぞれが持参した特産品や野菜そしてお酒で乾杯となった。宮城県の岡さんを中心に今まで公開されてこなかった貴重な津波のビデオを見せていただいた。津波が家に押し寄せてきたときの様子を克明に話して下さった。特に金華山沖の海が二つに割れたビデオには、そんなことがあったのかと驚いた。「家を修理するか 新築にするか どこに建てるか この1つのことでも悩みます。心はいつも揺れています。でも、一歩でもいいから、前へ歩もうと努力しているのです」とおっしゃっていた。



1時間半の草取りのボランティア・東北でのささやかな買い物では、役に立ってはいないと思う。でも、6.7メートルの津波のすさまじさを聞き、美しい松林が辛うじて松が立っているような変貌を見ることは大切なことだと思った。

相手の心に寄り添い、「困ったときには、お互い手をさしのべよう」「心の絆をむすびましょう」ということの大切さを感じた夜でした。

(野木山想会 山中 明子)

2012年県連交流ハイキング東日本大震災ボランティアに参加して

10月13日

マロニエハイキングから5名の参加となり、6時大谷駐車場に集合、野木役場出発のマイクロバスに同乗して、東北道を北上しました。鳴瀬奥松島ICで降りて、ボランティアの所へ。

11時からの予定でしたが、現地の方とうまく連絡がつかず、13時からに変更となりました。奥松島の通学路と避難通路跡の一部の雑草を除去しました。

東日本大震災から1年7ヶ月が過ぎても、復興には程遠く、津波の爪痕が・・・仙石線のレールは曲がり、錆びて赤茶色に、枕木が無い所も見えました。

夕方5時半頃、宿泊先の石巻水沼東部構造改善センターには、徳島からボランティア参加の女性群が、カレーライスを用意して下さいました。夕食後、石巻の労山の方々と交流が行われました。労山の奥様が、3月11日当日、自分の状況、どのようにして助けられたかなど、生々しく話して下さいました。22時頃まで交流会は行われました。

10月14日

7時出発で水沼山、上品山に4時間のハイキング、11時下山。

多くの学童が流された、大川小学校見学。学童の供養塔があり沢山の花が献花されていました。無残な姿の校舎もありました。校舎の近くに山が・・・

木々がたくさん塩害により、枯れて無残な姿があり、涙なしでは見ていただけませんでした。気を取り直し、上品道の駅に寄り昼食、帰路につきました。

参加人員 宇都宮ー10名、野木9名、悠々ー4名、上三川4名

マロニエハイキング 中沼 義江 記

2012 年県連交流ハイキング東日本大震災支援ボランティア in 石巻に参加して

今年度の県連交流ハイキングは今迄と趣きを変え東日本大震災復興支援ボランティア活動と石巻の特産物を買って、地元にお金を落として少しでも石巻の復興のお手伝いをして、上品山をハイキングする交流ハイキングとなりました。



石巻労山の岡氏がコーディネートしている石巻の現在のボランティア活動の場所は流動的で日々変わる状況で当初は牡鹿地区の予定が出発当日急遽変更になり奥松島の野蒜になりました。公園付近の通学路、カキ工場等の草刈を 32 名のパワーによりスピーデイに作業ができました。野蒜地区は津波が 4m ぐらいの高さで押し寄せ住宅の外観は大きなダメージは無いが家の中は破損して人の住んでいない家が多く見られました。JR 仙石線も線路が曲がったり寸断されていて津波の凄さを感じました。

夜は宿泊所の水沼構造改善センターで徳島山と友の会 12 名と船橋労山 7 名、石巻労山 5 名、栃木労山 32 名で交流会を行いました。

東日本大震災で 3・11 の映像や津波で自宅を全壊した原さん夫妻の被災時の生々しい話を聞く事ができよかった。

岡氏から大川小学校の惨事の話やその他多くの例を挙げて、大きな地震がきたら「津波てんでこ」(大きな地震が来たらまず自分一人でも高い所へ逃げる事)。「狼少年」にならない事等の貴重な話が聞けました。

このように実際に体験された人の話と、今回石巻の被害の実情を見た事、感じた事を他の人に伝えていく事が必要だと思いました。

ハイキングは当初予定していた硯上山は途中の道路が地震の影響で中型バスが通行できなく、変更して上品山を 4 時間かけてハイキングをしました。山頂から見える石巻市内、北上川の景色が素晴らしかった。

ハイキング後、大惨事となった大川小学校へ行きましたが鉄筋のモダンな校舎が無残にも破壊されていて津波の凄さを改めて感じると共に全校児童 108 人の 7 割に当たる 74 人が死亡、行方不明のことを思うと心が痛みました。

最後に東日本大震災の復興はまだまだ時間がかかり、私達ができるかぎり宮城、福島をはじめ東北に関心を持って今後とも協力していきたい。

今回の県連交流ハイキングは私として得るものが多く有意義なものとなりました。

悠遊ハイキング 高島 浩

読図講習会(初級) **実地研修**の開催のお知らせ

栃木県勤労者山岳連盟 教育部

地図を読むことができれば、山の姿が見えてくる。身体で覚えるまで、何度でも挑戦しよう。

※前回の座学に参加しなかった方も、参加できます。

◆ **日時・場所**

2012年11月17日(土) 午前9時00分～午後3時00分

○場所：宇都宮市篠井(しのい)町 篠井連峰(冒険活動センター裏山)

○集合 午前9時 冒険活動センター駐車場集合

冒険活動センター 宇都宮市篠井町1885-1 Tel.028-669-2441

◆ **講師**

池谷 友夫 氏 日本山岳ガイド協会ガイド(栃木岳人クラブ代表)

◆ **日程**

➢ 午前9時00分～午後3時00分 篠井連峰で実習

◆ **もってくるもの**

○コンパス(できればベースプレートのコンパス)、下野大沢25,000分の1の地図、

昼食、雨具、

○地図(榛名山～男山～本山付近)に赤ボールペンで、磁北線を記入して来てください。

◆ **雨のとき** 少雨決行ですが、実施の有無を確認したい場合は、

⇒会のまとめ役の方(又は個人)は、当日午前7時、栃木県連盟MLで確認するか、直接竹内まで電話ください。

◆ **申し込み**

各会とりまとめ人数(個人名は必要ありません)を教育部竹内まで。fax, メールで、定員なし。締め切り11月15日(木)

➢ 栃木県連盟MLへ。又は、電話・fax:028(661)1091 竹内 自宅

携帯 090-5321-4526

○ 参加者は、山岳保険(労山特別基金ほか)に、必ず加入してください。

※1月、指定したポイントを通り、目標地点まで行く実践講習(オリエンテーリング)を行います。(競うわけでは、ありません) ※11月⇒1月に延期しました。